

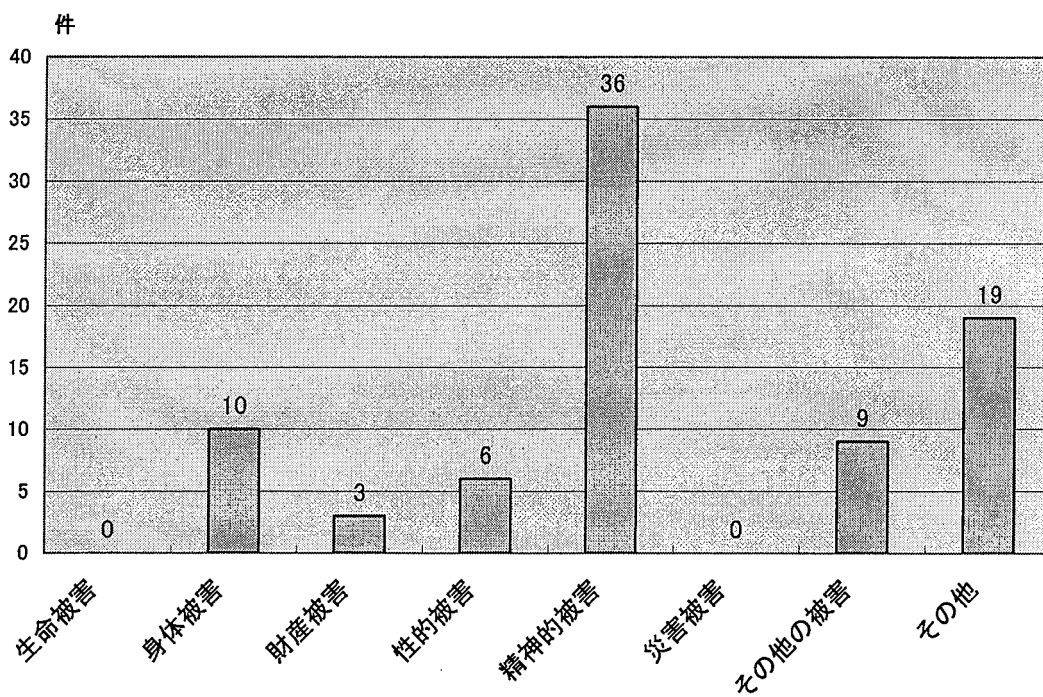
## 5. ストーカー被害

ストーカー被害では、精神的被害が36件と、最も多く、次いで身体被害10件、性的被害6件の順である（図20参照）。

表20. ストーカー被害の被害類型

生命被害	0件	
身体被害	10件	(傷害5件、暴行1件、その他4件)
財産被害	3件	(詐欺1件、恐喝1件、その他1件)
性的被害	6件	(強姦6件)
精神的被害	36件	(名誉毀損/侮辱2件、脅迫/強要9件、不明1件、その他24件)
災害被害	0件	
その他の被害	9件	
その他	19件	
合計	83件	

図20. ストーカー被害



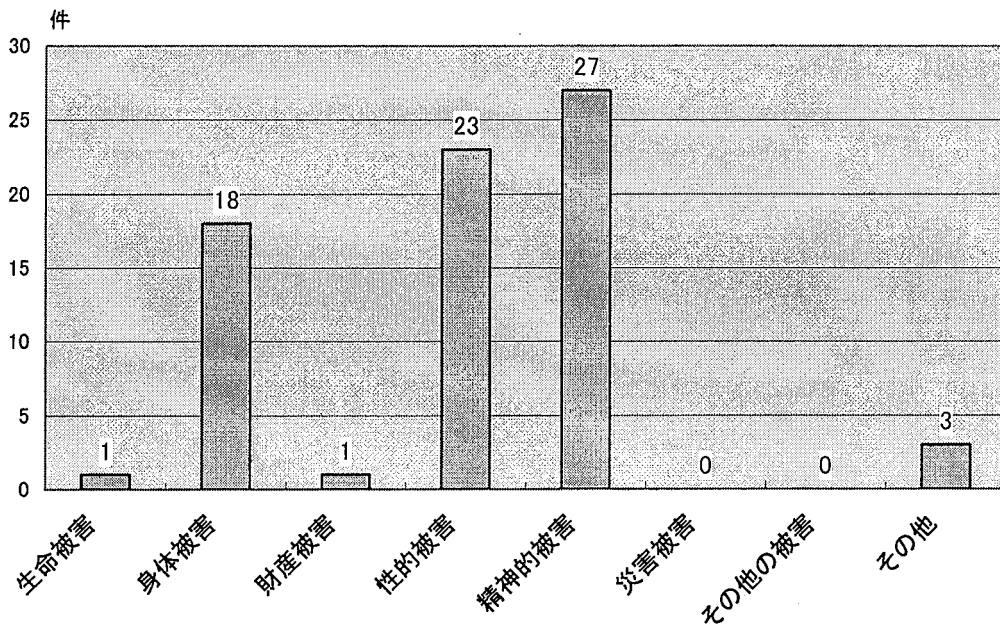
## 6. 虐待被害

虐待被害では、精神的被害27件、性的被害23件、身体被害18件の順である。

表21. 虐待被害の被害類型

生命被害	1件	(過失致死1件)
身体被害	18件	(傷害6件、暴行9件、不明3件)
財産被害	1件	(詐欺1件)
性的被害	23件	(強姦3件、強制わいせつ11件、不明2件、その他7件)
精神的被害	27件	(名誉毀損/侮辱4件、脅迫/強要2件、不明3件、その他18件)
その他	3件	
合計	73件	

図21. 虐待



## 7. 被害念慮・被害妄想

電話相談事例の中には、相談の内容から見て、実際に被害があったとは見なし難く、相談者の一方的な思い込みや、被害念慮ないしは被害妄想と考えられる

ようなケースも少なくない。今回の調査において、相談員が「被害念慮・妄想」という項目をチェックした件数は、総計134件で、全相談件数1401件の約1割に相当する。その中には、繰り返し電話をかけてきて、相談員が対応に困難を感じる例も少なくない。

表22.

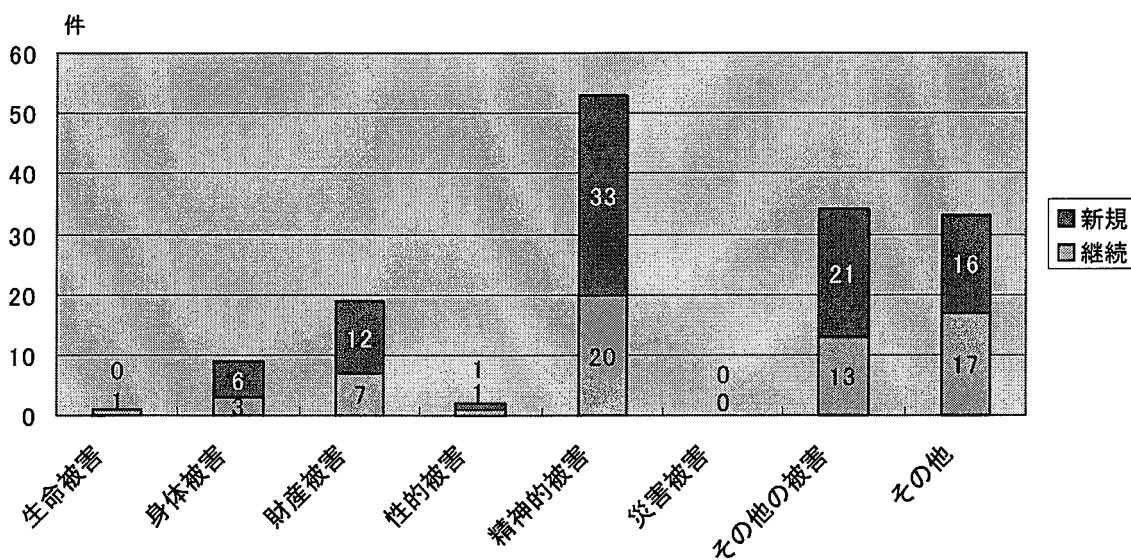
被害念慮・妄想の相談者の性別と新規・継続件数

	合計	男性	女性	性別不明
新規件数	77件	27件	50件	0件
継続件数	57件	20件	36件	1件

表23. 被害念慮・妄想と思われる相談者が訴えている被害

生命被害	1件	(殺人1件)
身体被害	9件	(傷害6件、暴行3件)
財産被害	19件	(窃盗12件、詐欺1件、不明1件、その他5件)
性的被害	2件	(強制わいせつ1件、その他1件)
精神的被害	53件	(名誉毀損/侮辱12件、脅迫/強要1件、不明4件、その他36件)
その他の被害	34件	
その他	33件	

図22. 被害念慮・妄想の相談者が訴える被害



## おわりに

全国被害者支援ネットワーク全組織の被害者支援活動の実態を把握する目的で、統一した受理表に基づいて、平成15年1月～2月間の、電話相談受理状況を調査した。

この2ヶ月間の相談受理件数は、総計1401件に及び、その中には、生命被害では、殺人40件、強盗殺人12件、傷害致死6件、過失致死48件、身体被害では傷害166件、暴行70件、性被害では強姦96件、強制わいせつ68件と、重大な犯罪の被害者が多数含まれていることが明らかになった。

近年社会的関心を引いている虐待(42件)や、DV(112件)、ストーカー犯罪(68件)の被害も数多く受理されており、民間援助組織の電話相談が被害者支援の窓口として有効な役割を果たしていることが明らかにされた。

今回の調査では、受理件数の単純集計に加え、資料の分析によって、被害類型や、被害態様、相談者の属性や相談回数などの間に、いくつもの興味深い相関が見られることが明らかになった。ただし、中には、調査期間中に何度か繰り返し相談電話をかけている事例がありながら、電話相談の性質上、同一人を厳密に特定できないという難点があり、これが統計上の評価に困難をもたらした。この問題は、将来的には解決可能である。犯罪被害者への早期・直接支援が重視されてゆく中で、電話相談であっても、適切な支援を目指すためには、被害者を特定・識別し、ニーズに応じた支援サービスを準備してゆく必要があるからである。

電話相談をはじめとして、全国被害者支援ネットワーク加盟各組織における支援活動実績の把握は、今後の支援活動の更なる展開を図る上で肝要なものである。本調査を通じて全国共通の統計作成の基礎が築かれたことは、大きな成果と言える。

また、調査資料から得られた犯罪被害者の実態についての、興味深い所見は、今後の正確な統計調査の積み重ねが、被害者の実態について多くの貴重なデータを明らかにし、被害者支援の向上に資するものとなるであろう事を示唆する。

なお、本調査は、全国の加盟組織の事務局スタッフの方々の協力により、実現したものである。様々な困難を抱えられ、多忙の中で御協力くださった皆様に、ここにあらためて心より感謝申し上げたい。

(野田美和、山上 皓)